ながの環境パートナーシップ会議
令和２年度活動成果報告書

手をむすんで

＼ようこそ／

ながの環境パートナーシップ会議へ

ながの環境パートナーシップ会議は、
市民・事業者・行政の三者が
連携協働し、様々な環境保全活動を
進めていく組織です。

ながの環境パートナーシップ会議

ながの環境パートナーシップ会議 活動成果報告書の発行に寄せて

1992（平成４）年、ブラジルのリオ・デジャネイロで開かれた「地球サミット（環境と開発に関する国連会議）」で、持続可能な発展のための人類の行動計画「アジェンダ21」が採択されました。これを受けて地域行動計画「ローカルアジェンダ」づくりが行われ長野市では、2003（平成15）年に、ながの環境パートナーシップ会議と協働で「アジェンダ21ながの－環境行動計画－」を策定し市民・企業・行政の協働により地域の環境保全活動を進めています。

地球環境問題は、1997年「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」、さらには2015年の温室効果ガス削減に関する国際的取り決め「国連機構変動枠組条約締結会議（COP）」通称パリ協定と国際的な枠組での活動となっています。また、2015年９月「国連持続可能な開発サミット」が開催され150を超える加盟国首脳の参加のもと「我々の世界を変革する：持続可能なための2030アジェンダ」SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）2030年に達成すべき目標」として掲げられました。私たちの地球環境と未来を次の世代につないでいくために、持続可能な社会構築の契機になるとSDGsを意識してのプロジェクト活動に取り組んでまいります。

CO_2排出量の増大は地球温暖化の加速により、気象変動による集中豪雨・ゲリラ豪雨や干ばつによる森林火災と私たちの生活基盤の崩壊さらには食料不足、コロナ禍などから富の偏り貧富の拡大など災いの基となりつつあります。2021年11月産業革命発祥の地英国グラスゴーで開催されたCOP26では、環境問題に危機感を持つスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさん（18）や日本の高校・大学生をはじめ世界中の若者が、世界の指導者に向かって「これは訓練ではない。地球への限界警報だ。私たちの地球が荒廃するにつれ何百万人の人が苦しむ。回避できるのはあなたたちが下す決断にかかっている。あなたたちには決定する力がある」と発信しました。

まさに長野に住む私たちが子供や孫のため、今こそ危機感を共有し、長野市を担ってくれる若者たちに豊かな自然環境とSDGsの取り組みで豊かな持続可能な社会を引き渡していくために、**今一人ひとりが身近にできること**から、**「考働する」**、長野市の目指す理想の姿**「しあわせ実感都市ながの：“オールながの”で未来を創造しよう」**を実現するべく活動の輪を広げています。より多くの市民・事業者・行政の方々に参加いただき、環境先進都市づくりの一翼を担うパートナーシップの活動に、参加していただけることを目的に発刊いたします。

令和４年２月
ながの環境パートナーシップ会議
代表理事　**金井　三平**

目　次

活動成果報告書に寄せて（代表理事ごあいさつ）
ながの環境パートナーシップ会議の概要 …… 1
令和2（2020）年度活動報告
生ごみ削減・再生利用プロジェクト …… 4
市民の森づくりプロジェクト …… 6
子どもの環境学習支援プロジェクト …… 8
小生物の育成環境保全プロジェクト …… 10
ゴマシジミ保護・育成プロジェクト …… 12
田中さくら公園作り＆
里山づくりプロジェクト …… 14
信州大学工学部環境学習における活動報告 …… 16
プロジェクトサポーター制度の紹介
新聞記事等で見る
ながの環境パートナーシップ会議の活動

ながの環境パートナーシップ会議は、市民・事業者・行政が連携し、
長野市環境基本計画を推進するための組織として、平成13年６月に設立、
具体的な実行プロジェクトとして
「アジェンダ21ながの―環境行動計画―」に基づき、
「長野市環境ビジョン」実現のため、
各プロジェクトチームが環境保全活動に取り組んでいます。

ながの環境パートナーシップ会議の活動を紹介します

本会は、「つなぐ」・「伝える」・「行動する」を念頭に、長野市環境ビジョンの実現に向けて各プロジェクトチームが環境保全活動に取り組んでいるほか、各種団体事業を支援しています。

本会会員やより多くの団体とのつながりを強化するため、総会の開催及び各種団体の活動を支援しています。

本会の活動を広く情報発信するため、主催事業の開催や他団体のイベントに参加しています。

各プロジェクトチームが様々な環境保全活動を実施しています。

アジェンダ21と
ながの環境パートナーシップ会議

アジェンダ21 ってなに？

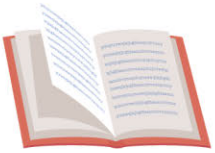
「アジェンダ（Agenda)」は日本語で「課題」、つまり、「アジェンダ21」で「21世紀への課題」という意味です。

1992（平成４）年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミット（環境と開発に関する国連会議）で、21世紀に向けて持続可能な発展のための人類の行動計画である「アジェンダ21」が採択されました。

これまで、私たちは大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムの中で、今日の豊かな社会を築いてきました。しかし、その一方で、地球温暖化、オゾン層の破壊などの地球規模の環境問題や資源の枯渇といった、人類の生存に関わる問題を引き起こしてきました。この「アジェンダ21」では、これらの問題に対処し、持続可能な社会を実現するための国際機関、国、国民、事業者など様々な立場の人々が取るべき行動として40の分野、1,000以上の行動が示されています。

また、持続可能な社会を実現する鍵が地域にあるという考えから、国連が世界中の地方自治体に対して地域版のアジェンダ21、すなわち「ローカルアジェンダ21」の策定を求めることとなったのです。

「アジェンダ21ながの」を実行するながの環境パートナーシップ会議



ながの環境パートナーシップ会議は、長野市とともに長野市版ローカルアジェンダ21である「アジェンダ21ながの―環境行動計画―」を策定、これに併せて自然と人間の共存を軸に本市の理想の環境像を描いた「長野市環境ビジョン」も定めました。

本会は、アジェンダ21ながのや環境ビジョンを実現する組織として複数のプロジェクト活動を推進しています。

◉長野市環境ビジョン

山にみどり・川に清流・谷に風・空に星
自然と和して発展するまち・人のくらし
みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

豊かな山々には人の手が入り、林は清冽（せいれつ）な水を生み、里山、田畑、水辺には多くの生き物が息づいて、豊かな恵みを与えてくれる。

まちには、木々が茂る安らぎの空間、水が流れる潤いの空間、すがすがしい風のなかを、人々がゆったりと安心して行き交う空間、自然に調和した街並みがある。そこに、地球の恵みを大切にしている市民のくらしがある。

長野の環境を保全、復元、創造し、未来に引き継いでいこうと、ともに知恵を絞り、汗を流す多くの市民がいる。そして、市民の行動を支える仕組みがある。

SDGsの達成に向け ながの環境パートナーシップ会議は 環境保全活動を推進していきます

2015(平成27)年９月に、ニューヨークで開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。これは、人間や地球の繁栄のため2030年までに達成するべき行動計画として掲げたものです。この目標が「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals 略して SDGs(エスディージーズ))」であり、これまでのアジェンダ21やミレニアム開発目標(MDGs) などの理念と成果を土台に、豊かさを追求しながら地球を守ることを呼びかける17の目標と169の行動計画で構成され、「誰一人取り残さない」という理念のもと、環境問題と経済発展を両軸に、先進国、発展途上国を含めた全ての国々に持続可能な世界に向けての変革を求めています。

これを受け、日本では、2016(平成28)年５月に、「持続可能な開発目標(SDGs)推進本部」を設置し、同年12月には、実施指針を決定しています。実施指針では、「持続可能な強靭、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の総合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」ことをビジョンに掲げ、政府が市民・事業者・NPO法人・行政と協力してSDGsの推進に取り組むことを示しました。

ながの環境パートナーシップ会議では、「アジェンダ21ながの―環境行動計画―」による環境保全の活動を実施していくとともに、このSDGsの目標達成に寄与するよう、市民・事業者・行政が協働して、地域から地球規模につながる環境保全活動を推進していきます。

生ごみを減らす活かす市民の力で

台風19号災害とコロナ禍に負けない 生ごみチームとキッズ生ごみ農園クラブ

令和２年度（2020）の生ごみチームの啓蒙活動は、これまで住民自治協議会や長野市と協働で行ってきた生ごみ削減と再生利用の講座は、コロナウイルス感染予防対策により縮小して行いました。しかし、信州環境フェアやアモーレフェスタの展示それに軽トラ朝市はすべて中止となってしまいました。

生ごみ削減の啓蒙活動が中止または縮小される一方、台風19号災害からの農場復興に励み「キッズ生ごみ農園クラブ」会員の生ごみの回収と堆肥化及びその堆肥を利用した野菜作りを続けられたことは嬉しい限りです。

５年目に入った農園の活動は、また一からのスタートなったわけですが、スタッフが出来る限り冬場に農機具の補修、整備などを行い、幸いにもトヨタの環境活動助成金を配分していただき壊れた農機具などを充実させることが出来ました。本年、継続した会員は９家族となってしまいましたが、生ごみの削減に協力的で無農薬・有機野菜の価値を良く理解している方々なので、地域で命を育む健康な野菜を共に作る喜びを感じて頂けてるのだと思います。

昨年12月に冠水した農地に麦の種まきをし復活の第一歩としたことが、多くの人に共感を得て、４月には例年通りに夏野菜の種まきがスタート出来ました。そして、市民の森チームの協力によりベンチを設置し、同時に簡易組み立て式トイレを作り、イベントに備えることが出来ました。心配していた土壌成分などの変容による影響は少なく、玉ねぎ･麦･ジャガイモなどが次々成長し収穫へ。無事に夏の収穫祭を迎えることが出来ました。

主な私たちの活動を紹介します

夏の収穫祭を縮小して実施

７月24日、家族会員の親子とサポーター企業（浄掃組合５社）の24名が生ごみ一人１kg以上を持参して参加、午前中にジャガイモ約600kgを収穫し会員に分配、ナスキュウリなどの夏野菜も収穫しました。また、こぼれ種で実ったライ麦も有志会員により収穫しながら脱穀していただきました。

コロナ対策のため会員同士の交流会である飲食は中止にして、収穫したジャガイモと予め作ったジャガバタや焙煎した麦茶を当日のお土産に、ライ麦は粉にして後日配ることにしました。頑張れば実るというのが実感です。

簡易トイレ

ミミズコンポストに生ごみを投入　生ごみと野菜の交換市を実施

収穫祭や交換市ではミミズコンポストが大活躍です。キッズ生ごみ農園に来ていただく時は、生ごみを１kg以上持ってきていただき、採れたての野菜と交換しています。家族会員は、農作業や収穫期に呼びかけ野菜と交換しています。

また、堆肥場を拡張したのでカブトムシの幼虫が発生した時は、会員の親子に育ててもらっています。

安茂里自治協主催の生ごみ減量講座

８月１日、コロナ対策のため予定の参加者を減らして実施しました。生ごみチームで開発した生ごみ発酵基材の特徴や専用段ボール箱の組み立てを実践し、堆肥作りのコツとその堆肥を使った花や野菜の育て方など資料を配布して説明しました。家庭菜園で生ごみ堆肥を常用している男性は熱心にメモを取り、堆肥の効能などについての質問がありました。

キッズ生ごみ農場の充実とミミズコンポスト２号機の開発

原木ベンチの集会所

農場の集会所となっていた原木のベンチは、昨年の洪水で全て流されました。そこで、再び原木を戴きに市民の森チームの原木ストックヤードへ行き、今回は原木の板を自分たちでカットして運んできました。厚い板は20㎝以上あり立派なもので、止めネジは特注で取り寄せ、出来上がると40人収容できる存在感のある集会所になりました。

後期予算で、かねてより懸案だったミミズコンポスト２号機を作ることにしました。１号機は、平箱式の３段層で１段目が生ごみ投入層、２段目がミミズの棲み処層で３段目が堆肥層（ミミズの糞塊）という設計です。これらの層は、当初予想していた冬場の凍結による心配も少なくミミズの繁殖・越冬・糞塊の量も満足のゆくものです。しかし、糞塊を取り出すには厚さ30㎝×1.6m四方の層を２人でスライドさせて３段目に落して、屈みながらスコップで掻き出す手間が大変です。そこでスライド式にした２号機は、糞塊が滑り台を落ちるように溜まり、やがて乾燥するとメッシュを抜けて堆肥場に溜まるという仕掛けです。

ミミズコンポスト2号機

秋の収穫祭で交流会を

11月23日、コロナ禍で開催が危ぶまれる中７家族18人が参加して大根・小松菜・ほうれん草・中島菜・ワサビ菜・レタスなどの収穫をして、もち小麦と春来大麦の種まきをしました。

その後、原木ベンチに座り焚火を囲みながら人参、ゴボウ、ジャガイモ、キノコ、さつま揚げなど具たくさんの豚汁を作り、地粉のすいとんを落としてみんなで戴きました。因みに味付けは、この農場育った大豆の手造り味噌と醤油に拘っています。

参加者には、大根を一家族15本と他に葉物野菜をお好きなだけ持ち帰っていただきました。

アモーレフェスタ中止でも出店

コロナ禍でアモーレフェスタは中止になりましたが、実行役員の希望により、支所の駐車場で大根の販売を行いました。有機無農薬栽培の評価は高く、熱心なファンに支えられての出店でした。ありがたいことです。

＼プロジェクトリーダーから一言／

リーダー　河西　弘明

台風19号に追い打ちをかけてコロナウイルス感染症対策は、本チームの活動に規制をかけるともに気概を弱めるものでした。公的機関の主催する生ごみ減量講座や展示会、フェアなどの多くが中止となり、キッズ生ごみ農園クラブの会員更新は半減し、新規会員募集も滞ってしまいました。しかし、私は「こういう状況だからこそ中身をしっかり固めて備えよう」と決めました。焦らずこれまでやってきたことの半分もできれば良い、淡々とやるだけだと思うようにしました。

コロナ後を見据え、水害で流されたベンチを皆で作り直し、これまでの2.5倍の50人が集会できるようになりました。また、ミミズコンポスト２号機は、おそらくまだ誰もやったことのない発案で、設計図はなく考えながら作ったので、改良の余地はまだまだあると思いますが、ともかく動き出しました。夏場はミミズの繁殖が見られました。脱プラスチック運動を掲げてスタートした麦ストロー製作は、試作品を作ったが頓挫しているので何とか軌道に載せなければと思っています。ライ麦を千曲市の業者に製粉して頂き皆さんに配り、ライ麦パンが焼き上がりました。

私たちチームはこんなことをしました

市民の皆さんに喜んでいただけるような森づくりに取り組みました

私たちのチームは、令和２年度も、以下の事業を計画・実施しました。

「高校生の森林整備体験受入」「秋の里山散策」は実施できましたが、「かんじき体験会」「きのこの駒打ち体験会」「趣味の林業講座」などは計画したものの、コロナ禍の影響で軒並み中止や一般参加の取止めとなってしまいました。そんな中でも、毎月２回の定例森林整備作業、およびミーティングなどを積極的に行いました。

主な私たちの活動を紹介します

秋の里山散策

今年も、きのこの収穫時期に合わせて、一般の市民の皆さんの参加を募り、秋の里山散策を実施しました。

ボブスレー・リュージュパークの森の中を散策して頂き、志賀高原の山並も綺麗に見えました。春にきのこの駒打ちを実施した、ほだ木から沢山のきのこも収穫できました。

きのこの駒打ち

４月には、きのこの駒打ちを行いました。秋の収穫を夢見て頑張って作業に取り組みました。駒打ちの後は林内に敷設。乾燥を防ぐために少し埋めたり、落ち葉を掛けたり、敷設する場所を考えるのもなかなか難しいものです。

残念ですが、コロナ禍の影響で今年は会員のみでの作業としました。

高校生の森林整備体験受け入れ

今年も、北部高校生の生徒さんの森林整備体験講座をボブスレー・リュージュパークの市民の森にて受け入れました。手鋸を使って、高校生の皆さんで協力しながら間伐体験をしていただきました。

中には、のこぎりを殆ど使ったことが無く、悪戦苦闘の間伐作業との生徒さんも見えました。

市民の森の整備

月２回、定例整備日を設け、ボブスレー・リュージュパーク周辺の森を中心に森の整備を実施しています。

昨年の台風による倒木の処理も徐々に進んでいます。中々大変な作業もありますが、皆で愉しく、そして安全が第一で作業を実施しています。

市民の森の整備（製材機小屋設置）

間伐して搬出した、丸太の製材に使用する簡易製材機の小屋の設置も実施しました。

皆で知恵を出し合い、手作り感満載の製材機小屋が完成しました。

趣味の林業講座

６月～９月に、５回積み上げの趣味の林業講座が、長野市森林整備課、長野県林務部、市民の森ながのの共催で毎年開催していましたが、平成２年度はコロナ禍の影響で中止となってしまいました。

大変に活気あふれる林業講座でありますので、来年は開催となると良いと思います。

（写真は令和元年度開催の模様）

＼プロジェクトリーダーから一言／

リーダー　**片桐　勝治**

山の作業を通して仲間と出会い、語らい、喜びを分かち合うことができました。日常生活では味わえない何かが、そこにはあるのです。

長野市内に、市民が誰でも入ることのできる森があちこちにできて、自然の中で遊んだり、学ぶことが身近にできる、そんな森が長野市民の財産となって行く、そんな里山の在り方が、我々の夢でもあります。

ボブスレー・リュージュパークの奥の森は、私たちが手入れを始める前は、立入ることもままならない藪々の森でしたが、今では気持ち良く散策の愉しめる森となりました。どうか皆さんも一度この「市民の森」に来てみて下さい。きっと何かを感じていただけるのではないでしょうか。

まだ道半ばです。仲間となっていただける皆さんを募集しております。

URL〉http://siminnomori.nagano-ep.net/

私たちチームはこんなことをしました

ユース（中高大学生）の環境学習と交流に取組んでいます

地球環境の危機の時代、地域に環境活動を根付かせることがますます重要になっています。長野市には多くの環境NPOが活動し、こどもエコクラブもあるのですが、中学生、高校生になると環境活動の機会がなくなることが、大きな課題です。国連環境計画会議など海外の環境交流活動に子どもたちを参加させてきた体験から、国際的な交流はこどもたちの意識や、考え方を大きく成長させることがわかりました。そこで、中高大学生（ユース）を対象とした国際ユース環境会議を毎年開催し、国内外のユースが交流することで、子どもから大人まで、各世代の環境活動がつながり、長野市が「国際環境都市」として大きく発展していけたらと考えています。

主な私たちの活動を紹介します

長野から始める!

- 周りを山に囲まれて、海外を意識しにくい
- オリンピック経験がある
- 地元を良くしたい（地域活性）
- 環境が豊か

長野を国際環境都市に！

国際ユース環境会議の経過

2010.：環境X国際交流をこどもサミットで呼びかけ
2012.06.15-17：第１回を鬼無里で
2013.08.09-11：第２回を大岡で
2014.09. 5 - 7 ：第３回を戸隠で
2015.06.27-28：第４回を鬼無里で
2016.06.15-17：第５回を小田切錬成センターで
2017.06.30-02：第６回を小田切錬成センターで
2018.06.22-24：第７回を長野市内シナノキ会館で
2019.09. 7 - 8 ：第８回を小田切錬成センターで
2020.10. 3 - 4 ：第９回を市内と錬成センターで
開催

今年のテーマは「ゴミって何だろう」Zoomで他県ともつないでレポート発表

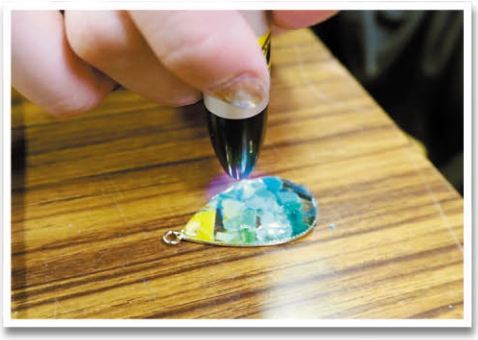
今年はオンラインを活用することで環境活動をしている全国のユースにも呼びかけることで視野が大きく広がりました。３日は市内の会場と他県からのユースとzoomを使って今年のテーマである「ゴミって何？」を事前作成の資料を各自英語で発表し、意見交換しました。古着をダサくなくリサイクルするなどユースらしい発表があり、同じテーマでも人によって様々な視点から発表することで、新たな発見ができるとともに、とても良い経験交流となりました。

ワークショップ：海外のゴミ山を見て

次いで「ポイ捨てを減らすには」をZoom会議でグループ毎に討論し、学校でのゴミ拾いの結果をもっと地域に知らせたいなど、意見交換をしました。発表の後、フィリピンのゴミ山で暮らす子ども達の写真紹介があり、世界ではゴミが様々な社会的課題となっている現状を学びました。ゴミは見方によって有用にもなることがわかりました。

昔ながらの遊び

４日は小田切の錬成センターに集まって学習・交流会をしました。最初は、竹を使って遊び道具を作ることで、ゴミの出ない生活を考えるワークショップです。長野市こども支援員の渋谷啓治さんから竹とんぼの作り方を教わりました。削るのが難しかったけど、皆で庭で飛ばしたのが楽しかったです。



海ゴミでアクセサリー作り

海にはたくさんのゴミが漂着してきます。きれいなプラスチックや陶器の破片など様々な「ゴミ」を送ってもらい、それらを使って接着剤などできれいなアクセサリーを作りました。誰にプレゼントしようかとわくわくしました。山国長野からも川を通してたくさんのゴミが海にながれているのでしょう。

BBQで楽しく交流

ハンターの後藤さんから長野県でのシカやクマなどの野生動物の現状とその対策について話を聞きました。その後、狩猟されたシカの肉を実際に解体し、BBQで食べることで野生動物を身近に感じる貴重な体験をしました。

未来への手紙

この会議で感じたことや体験したことを思い出しながら、自分と世界の未来へ向けての手紙を書きました。普段の生活の中では未来を考える機会はあまりないように感じます。様々な世代の人と一緒に生活する中で何を学んだのか、それをどのように活かせるのかなど、考えをまとめるのは大変でしたが、有意義な時間となりました。来年に自分の書いた手紙が届くのが楽しみです。

＼プロジェクトリーダーから一言／

長野市には多くの環境活動がありますが、「地域に根付いた活動」のためには子どもから中高大学生、大人まで継続的に活動が行われる場が必要です。そのために国際ユース環境会議を立ち上げ、今年で９回となりました。今回は前回参加のユースがテーマや内容を工夫するなど、新しい取組で始まりました。コロナ流行の中ですが、オンラインで他県のユースとも意見交流ができました。そのことで改めて地元の良さと足りない部分とがわかり、長野市らしい環境活動が生まれてくるのではないでしょうか。皆さんも世界と足元の長野の現場から未来を考えてみませんか。

リーダー　**渡辺　隆一**

私たちチームはこんなことをしました

国蝶オオムラサキの里の環境保全に取り組んでいます。

私たちチームは、令和２年度活動としてオオムラサキをはじめとする様々なチョウの飛翔乱舞する事を夢見て生息環境の保全・整備に取り組みました。

主な私たちの活動を紹介します

①オオムラサキ観察会開催（小学校／一般）

松代地域の小学校（３校）がオオムラサキ観察会に訪れました。オオムラサキの羽化に立会うことができ、「がんばれー！」と歓声をあげていました。一般市民対象の観察会は100名の参加者があり、幼虫・蛹・成虫を観察し、感嘆の声があちこちから聞こえました。

②オオムラサキの里の整備

年に数回の草刈りや木の伐採を行なっています。

③信州大学研修生受け入れ

信州大学の地域環境演習から研修生１名が来てくれました。

毎週のオオムラサキ幼虫の飼育作業や整備作業をして頂き、一般向けのオオムラサキ観察会では幼虫観察記録の報告をして頂きました。

④アサギマダラの飛来

フジバカマ園に今年もアサギマダラが飛来してきました。ヒョウモンチョウ等いろいろなチョウも集まってきて、乱舞する姿は見事でした。

⑤オオムラサキの里 自然観察ハンドブックの発行

「信州松代 オオムラサキの里 自然観察ガイドブック」を制作しました。

オールカラー、全24ページです。

松代地域の小学校６校と中学校１校の全児童・生徒に配布しました。自然観察会でも配布しています。

＼プロジェクトリーダーから一言／

“オオムラサキ蝶の里・竹ノ入について思う”

私達「小生物の育成環境保全PT」が「スハマ会」より、オオムラサキの保護活動を引き継いだのは８年前のことです。その後、オオムラサキの発生が減少ぎみでしたが、ここ数年は回復傾向にあります。しかしまだ満足するにはほど遠い状態です。私達はどのように自然に接し、オオムラサキを増やすにはどのようにすべきか？オオムラサキが「竹ノ入」の空に乱舞する姿を夢見ながら、会員の皆さんや一般市民の方々の知恵や情報を頼りに前に進み、生育環境の整った「オオムラサキの里」を次世代に引き渡したいと思っています。

リーダー　杉山　茂樹

私たちチームはこんなことをしました

絶滅危惧種ゴマシジミの保護

私たちチームは、この活動を始めて６年目です。

雨の多い年、気温が上がらず花の咲く時期が遅い年など、様々に変化する自然環境とそれから受ける生態系にどのような変化が起きるのか観察してきました。

これらを記録に残し自然環境保護の重要性を次世代につなげていければと更なる活動の充実を図ります。

主な私たちの活動を紹介します

ゴマシジミって何？

シジミチョウ科の草原に住む蝶で環境省のレッドリストの「絶滅危惧種ⅠA類」に指定されている。

現在県内では松本市奈川地区と長野市浅川地区にだけに生息し近い将来に絶滅する危険性が極めて高いため両地域とも保護活動に取り組んでいる。

蝶の大きさは開張40㎜ほどで薄黒い羽の表面には青い鱗粉がキラキラと輝いている。羽の白っぽい裏面には名前の通り黒のゴマ模様が点々とみられる。

生態系は食草のワレモコウとクシケ蟻とのトライアングルの関係にあり、非常に興味深い。

成虫はワレモコウの花に産卵し、そこで孵化した幼虫が成長して地面に降り、クシケ蟻と出会う（ほかの蟻はダメ）幼虫は蟻の巣に運ばれ冬を過ごす。

幼虫は蟻の卵か蟻の幼虫を食べ成長、蟻の幼虫の出す体汁を求めて過ごしていると思われる。やがて暖かくなると幼虫は蟻の巣を離れ、朽ちた木などの下でサナギとなり７～８月に成虫となる。丁度その頃がワレモコウの花の咲く時期にあたる。

注：浅川地区生息地に2年に渡り大阪府立大助教授上田氏の研究室でクシケ蟻調査に入るも（延べ人数31名）いまだ蟻の発見に至らず。多種蟻は6種ほど確認。

保護活動１）生息地域の整備「林の間伐、草原の草刈り」

※ 他の草との関連性の調査の為一部の草を残す刈り方

保護活動２）食草「ワレモコウ」の植栽

※ 生息地で収集した種子を育苗……浅川小学校４年生（70人）

※ ６月小学生による現地植栽（一部ボランティア活動要請・延べ30名）

保護活動３）「マニアによる密猟、乱獲防止、注意喚起」

※ 蝶の発生時期から産卵終了時期までのパトロール。（２人１組・延べ50名）
※ マニアによる密猟･乱獲防止と注意喚起看板設置。
※ 防犯カメラの設置。
※「がんばれ！ゴマシジミ」物語の紙芝居上演による勉強会と現地での説明会

密猟者は５年以下の懲役又は500万円以下の罰金に！

ゴマシジミは環境省のレッドリスト絶滅危惧種 1Aに指定されていて絶滅寸前の貴重な蝶です！

ゴマシジミの交尾

花に産卵

食べて育つ幼虫

捕まる！

ゴマシジミの最大の天敵は密猟者です

先進地・松本奈川視察

ロープや看板を設置

と 500 万円以下の罰金

パトロール

翅を広げたゴマシジミ

浅川地域あげてのゴマシジミの保護育成活動

食草のワレモコウの苗を植え替え

浅川小学校四年生は

蝶が生息する長野市雲園現地見学

「にこにこ一座」が上演

北部中美術部が制作

紙芝居の上演活動

ひかり幼稚園で上演

長野市浅川地区住民自治協議会
まちづくり委員会・ゴマシジミ保護育成チーム

制作　北條昭吾

＼プロジェクト事務局から一言／

「ふるさと創生」活動の一環として、浅川地区内住民の意識の高揚とボランティア参加の醸成を図り、浅川の特徴である中山間地と平野部の融合を徐々に深め、また子ども達からお年寄りまでの交流を図り次世代への財産として繋がればと考えています。

まちづくり計画に位置している「ゴマシジミの保護・育成」をとおして、里山の整備、自然環境の保全の大切さを学んでいければと思い、継続的な活動を行っています。

今後も生息環境の観察とゴマシジミの生態系の研究にいっそう取り組み、地元の資産として子供から大人まで感心を持ってもらうよう、継続性のある活動を目指したいと思っています。

事務局　原田　孝成

私たちチームはこんなことをしました

里山の保全＝さくら公園作りに取り組みました

令和２年６月から令和３年５月までの活動で、田中桜公園の更なる改良に取り組みました。

主な私たちの活動を紹介します

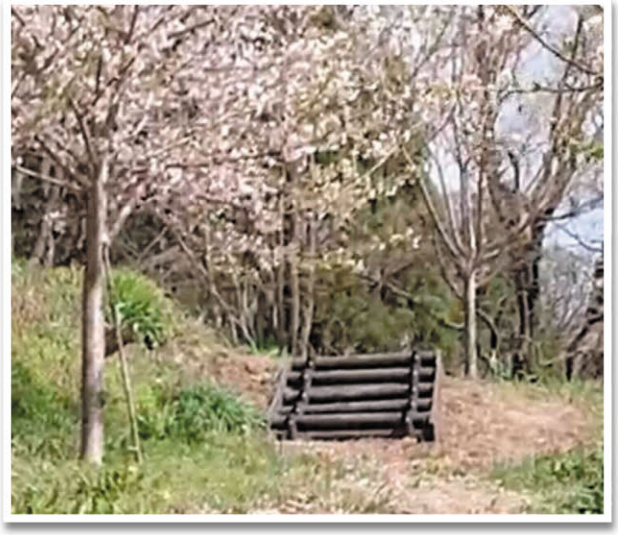
一年間の目標として、桜公園で長く過ごせるように公園の充実をまた一段と図りたいと考えました。

←左の写真は、前年度作成設置したベンチです。このベンチが利用できるように遊歩道を整備したい。そのためには、この写真にあるように左下写真の原野だった頃の木の切り株が残っていますので、これを処理し、整地したいと作業に着手しました。

そこで、まず、バックホーで切り株を除去し、常用草刈り機が入れる程度の整地を小型のブルで行いました。

←左の写真は、桜公園整備前の現地の画像です。原野の状態でした。
令和２年度は、予算を多くいただくことができたので、思い切って大がかりに公園改造に取り組むことができました。

そして、プラスチック再生の擬木を組み、階段を２カ所に設置し、遊歩道を作り、ベンチを生かすようにしました。



全景です

おかげさまで、設置前とは比較にならない公園に育っています。天気の良い春･初夏･秋は、保育園のお散歩の目的地としても親しまれるようになりました。

大変に景観が良くて、この頃雲海など楽しめるスカイテラスが観光地にできていますが、「行ったことのあるスカイテラスに負けないよ！」と感想を語ってくれる方もおります。

是非訪れてください！！

＼プロジェクトリーダーから一言／

環境パートナーシップ会議に参加させていただき、３年。

この年は、整備が大変進んだ年となりました。
私の作業している畑の脇の農道を、保育園児20人ほどが先生に連れられ通りがかりましたので、「これからお散歩？どこに行くのかな」と声をかけると「さくら公園だよ」と楽しみな声。お散歩コースになっているのだとのこと。
自分たちが作っているとは話しませんでしたが、内心大喜びでした。

コロナ禍の中で、なかなか全員集まっての作業や楽しみごとが組めない日々が続きますが、希望を持ち、夢を描いて、子どもたちからご老人まで、またご家族でと里山に親しむプロジェクトを進めたいと思います。

リーダー　上條　補喜

信州大学工学部
「地域環境演習」について

信州大学工学部建築学科
教授　**高村　秀紀**

信州大学工学部では平成19年度より、地域環境演習を全学科の２～４年生を対象に開講しています。授業のねらいは自然環境に配慮した環境マインドを習得し、環境調和型社会を目指した工学的な取り組みを継続的に行うことができるようになることです。また、PDCAサイクルを機能させて行動できる人材育成を目指しています。この授業では長野市とながの環境パートナーシップ会議の全面的なご協力のもと、学生がながの環境パートナーシップ会議の各プロジェクトチームの一員として環境保全活動を行います。地域環境演習Ⅰは前期（４月から８月）、地域環境演習Ⅱは後期（９月から２月）に開講しています。前期の地域環境演習Ⅰで活動し、引き続き活動を希望する場合は、後期に地域環境演習Ⅱで活動を行うことができます。授業の流れは下記の通りです。

４月　**ガイダンス①：概要説明**

４月　**ガイダンス②：各プロジェクトチームの紹介※**

４月　**ガイダンス③：希望チームの申告と確定。プレゼンテーション技法に関する講義**

〈これ以降、各チームの活動〉

６月　**第１回進捗状況報告会**

７月　**第２回進捗状況報告会**

９月　**活動成果発表会※**

※事務局の長野市環境部環境保全温暖化対策課の方とながの環境パートナーシップの方に大学にお越し頂きます。

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症への対応として課外活動への参加が難しいことから休講としました。本来であれば､次の３つのプロジェクトチームに参加させて頂く予定でした。①市民の森づくりプロジェクトチーム、②子どもの環境教育支援プロジェクトチーム、③小生物の育成環境保全プロジェクトチーム。

プロジェクトチームに加えて頂き活動することは労力と時間を要します。にもかかわらず、選択してやり遂げる受講生は、この活動の過程で沢山の事を学んでいくはずです。今後も、長野市環境部環境保全温暖化対策課とながの環境パートナーシップ会議のご協力を得て、地域環境演習を続けて行きたいと思いますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

プロジェクトサポーター制度

事業者の皆さんと連携強化

プロジェクトサポーター制度の紹介

◉プロジェクトサポーター制度とは…

事業者の参画をより一層促していくため、プロジェクト活動に協働・支援・共感等いただける事業者が、直接、人的・活動資金・活動場所などを支援いただき、協働体制による継続的な環境活動の展開を図ることを目的に、平成28年度に当制度を創設しました。

長野市委託浄掃事業協同組合	×	生ごみ削減・再生利用PT
直富商事株式会社	×	子どもの環境学習支援PT
コマキ工業株式会社	×	小生物の育成環境保全PT
株式会社公害技術センター	×	生態系豊かな、水に親しめる川づくり（水環境保全）PT

新聞記事等で見るながの環境パートナーシップ会議の活動

●ながの環境パートナーシップ会議 新聞等掲載一覧表（R2.6.1 ～ R3.5.31）

番号	掲　載 年月日	掲載新聞名 ・広報紙名	掲載記事見出し	掲載記事の関係団体名 （P会議プロジェクト及びP会議会員団体等）
1	R2.7.4	長野市民新聞	チョウの羽きれい 松代幼稚園東条の林で　オオムラサキ観察	小生物の育成環境保全 PT
2	R2.7.4	週刊長野	国蝶オオムラサキの里　7 月 5 日観察会	小生物の育成環境保全 PT
3	R2.7.9	長野市民新聞	オオムラサキ見入る　松代の飼育用ハウス内で	小生物の育成環境保全 PT
4	R2.8.8	長野市民新聞	浅川の市霊園でゴマシジミ舞う	ゴマシジミ保護育成 PT
5	R2.8.22	信濃毎日新聞	絶滅危惧種　ゴマシジミ確認数最多	ゴマシジミ保護育成 PT
6	R2.10.17	長野市民新聞	ライトダウンキャンペーン 2020 in ながの　広告	ライトダウンながの実行委員会
7	R2.10.20	長野市民新聞	ライトダウン　23 日に呼び掛け　長野駅で演奏会も	ライトダウンながの実行委員会
8	R2.10.22	長野市民新聞	ライトダウンキャンペーン 2020 in ながの　広告	ライトダウンながの実行委員会
9	R2.10.29	長野市民新聞	ライトダウンキャンペーン終了　コンサート継続願う	ライトダウンながの実行委員会

団体・企業も
新会員募集中!!

入会のお申し込み・お問い合わせ先

ながの環境パートナーシップ会議　事務局

長野市環境保全温暖化対策課内
〒380-8512
長野市大字鶴賀緑町1613番地
TEL.026-224-5034
FAX.026-224-5108
E-mail:kankyo@city.nagano.lg.jp
http://www.nagano-ep.net/

入会申込書は、ながの環境パートナーシップ会議事務局に用意してあります。また、本会のホームページからもダウンロードできます。必要事項をご記入の上、事務局まで郵送、ファックス、電子メールのいずれかでお送りください。

こちらまで
どうぞ。

イメージキャラクター **キラピー**

山の緑も川の水も空の星も人の心も、
長野市中の環境も人も未来もキラキラと輝き、
生き生きと暮らせるように、という願いが込められています。

いつでも入会できます。会員になって、一緒に環境保全活動を進めましょう（年会費一口500円）。

ながの環境パートナーシップ会議
令和２年度活動成果報告書
「手をむすんで」

令和４年２月発行
編集発行：ながの環境パートナーシップ会議
印刷・製本：蔦友印刷株式会社

PRINTED WITH SOY INK 環境保全のため、再生紙および大豆インクを使用しています